

更新日：2026年1月19日 ファイル格納場所：

<https://github.com/shiroi36/00Drawing/tree/master/00%E7%89%A9%E4%BB%B6%E3%83%95%E3%82%A9%E3%83%AB%E3%83%80%E3%81%B2%E3%81%AA%E5%BD%A2/04a%E4%BA%8B%E5%89%8D%E7%94%B3%E8%AB%8B%E7%89%88>

- 1. 優先チェックすべき項目
- 2. 各計算書の詳細チェック項目
  - 2.1. 構造図に関する確認項目
    - 2.1.1. 構造図と一貫計算書との整合
    - 2.1.2. 構造図と個別計算書との整合
    - 2.1.3. 図面間の整合
    - 2.1.4. 図面表現の過不足
  - 2.2. 個別計算書に関する項目
    - 2.2.1. 設計方針
    - 2.2.2. 荷重
    - 2.2.3. 二次部材
    - 2.2.4. 接合部
    - 2.2.5. 基礎・地盤
    - 2.2.6. 一貫計算補正検討
    - 2.2.7. 付録
  - 2.3. 一貫計算書チェックリスト
    - 2.3.1. 建物データ入力
    - 2.3.2. 許容応力度計算データ入力
    - 2.3.3. 保有水平耐力計算データ入力
- 3. 更新記録
- 4. MARKDOWN記法に関するメモ

## 1. 優先チェックすべき項目

- ☐ 意匠図と構造図をみてください。意匠図に書かれている高さ関係をチェックしてください。その項目は以下となります。
- GLと1FLの高さをチェックしてください
- 最高軒高をチェックしてください
- 各階の階高をチェックしてください
- ☐ ブレースがある場合は、ブレース位置の整合性を確認してください。整合性の確認手順は以下となります。
- 一貫計算書の§1.2あたりの略伏図と、構造図を比べてください。
- 構造図と、意匠図を比べてください
- ☐ 基礎梁リストのカットオフ長さのチェックを行ってください。その手順は以下となります。
- 一貫計算書§11.6.10あたりの検討がNGとなっていないかどうかをチェックしてください
- ☐ 各種材種を確認してください。その検討項目は以下となります。
- 大梁のSM490：GOOMB、BOOMなど、Mつきの梁の材種を、一貫計算書と構造図を確認してください
- 基礎梁のFcを、一貫計算書と構造図を確認してください
- ☐ めっきを行っている部分について、以下を確認してください
- めっき範囲を意匠図と構造図で整合しているかどうか確認してください

- めっき範囲のボルトが、以下のすべり耐力になっているかどうか確認してください
- F8T $\mu$ 0.4の許容せん断耐力(長期)
- M20 一面33.5kN:二面67.0kN | M22 一面40.5kN:二面81.1kN | M24 一面48.2kN:二面96.4kN
- F8T $\mu$ 0.4の許容せん断耐力(短期)
- M20 一面50.25kN:二面100.5kN | M22 一面60.75kN:二面121.65kN | M24 一面72.3kN:二面144.6kN

## 2. 各計算書の詳細チェック項目

### 2.1. 構造図に関する確認項目

#### 2.1.1. 構造図と一貫計算書との整合

- ☐ 伏図の小梁配置は、計算書略伏図と整合している
- ☐ 軸組図のブレース配置は、計算書略軸組図と整合している
- ☐ 基礎梁リストの配筋は、計算書基礎梁リストと整合している
- ☐ 基礎梁リストのカットオフ長さは、計算書基礎梁詳細と整合している
- ☐ 基礎梁リストの主筋上下関係図は、計算書の基礎梁かぶり厚と整合している
- ☐ 柱リストの材種は、計算書柱リストと整合している
- ☐ 柱リストのBPL・アンカーボルトは計算書の柱脚設定と整合している
- ☐ 梁リストの材種は、計算書梁リストと整合している
- ☐ 剛接合部リストの継手長さは、計算書の継手位置設定と整合している
- ☐ ブレースリストの材種は、計算書ブレースリストと整合している
- ☐ ブレースリストの接合詳細は、計算書の鉛直ブレース断面有効率と整合している

#### 2.1.2. 構造図と個別計算書との整合

- ☐ 構造設計特記仕様書の設計荷重は計算書の床荷重表および各荷重の算定結果と整合している
- ☐ デッキ仕様書の板厚・耐火認定番号は、計算書デッキの検討と整合している
- ☐ 柱状図の杭下端レベルは、杭計算書と整合している
- ☐ 伏図の小梁配置は、計算書小梁検討位置図と整合している
- ☐ 基礎小梁リストの配筋は、計算書基礎小梁の検討と整合している
- ☐ 梁リストのスタッド径・高さ・ピッチは、計算書合成梁の検討と整合している
- ☐ 柱継手リストの継手位置は、計算書の継手位置と整合している
- ☐ ブレースリストの断面は、計算書ブレースの検討と整合している
- ☐ 二次部材リストの断面・GPL・ボルトは、計算書二次部材の検討と整合している
- ☐ 鉄骨階段詳細図の側桁・GPL・ボルトは、計算書鉄骨階段の検討と整合している
- ☐ ぶどう棚詳細図の断面・GPL・ボルトは、計算書ぶどう棚の検討と整合している
- ☐ スラブリストの配筋は、計算書スラブの検討と整合している

#### 2.1.3. 図面間の整合

- ☐ 構造設計特記仕様書のコンクリートFcと鉄骨材種は各部材のリストと整合している
- ☐ リストに記載がある部材はすべて使用している

#### 2.1.4. 図面表現の過不足

- ☐ 杭リストに杭継手工法を示している
- ☐ 伏図にスラブ・土間・埋め戻しの範囲を示している

- ☐ 伏図に梁上端レベルを示している
- ☐ 片持ち床の出寸法を示している

## 2.2. 個別計算書に関する項目

### 2.2.1. 設計方針

- ☐ 計算書建物概要の工事名称・建築場所・工事種別・主要構造・建物規模・主要用途・仕上概要は、意匠図と整合している
- ☐ 構造計算用階高の説明は、一貫計算書の構造計算用階高の設定と整合している

### 2.2.2. 荷重

- ☐ 床荷重表の固定荷重・積載荷重は、一貫計算書床荷重と整合している
- ☐ ぶどう棚がある室の荷重表は、ぶどう棚荷重を考慮している
- ☐ 基準類に規定のない積載荷重はその根拠を示している
- ☐ 風圧力算定における最高高さ・軒高さは、意匠図と整合している
- ☐ 積雪荷重算定における特定緩勾配屋根の屋根長さは、意匠図の屋根最上端から最下端までの水平投影長さと整合している

### 2.2.3. 二次部材

- ☐ 一貫計算書で横補剛材として考慮する小梁はすべて端部の横補剛の検討をしている
- ☐ 壁がとりつく部材の検討は壁荷重を考慮している
- ☐ R階屋根の小梁は施工荷重・積雪荷重・風圧力を考慮している
- ☐ スラブの設計荷重 $w, w_p$ は床荷重表と整合している
- ☐ 図面に記載の横補剛材はすべて検討を記載している
- ☐ 外壁材・屋根ふき材はすべて検討を記載している

### 2.2.4. 接合部

- ☐ ボルト耐力は、JFE鋼構造設計便覧の許容耐力表と整合している

### 2.2.5. 基礎・地盤

- ☐ フーチングの設計軸力は、一貫計算書支点反力図または杭計算書軸力と整合している
- ☐ ベタ基礎の設計地反力は、一貫計算書支点反力図の最大接地圧と整合している

### 2.2.6. 一貫計算補正検討

- ☐ 一貫計算メッセージへの所見は一貫計算書メッセージ一覧と整合している
- ☐ Exp.Jクリアランスの根拠を示している

### 2.2.7. 付録

- ☐ 地盤の内部摩擦角 $\phi$ と粘着力 $c$ は地盤調査報告書と整合している
- ☐ 地盤のヤング率 $E_s$ は地盤調査報告書と整合している
- ☐ 水平地盤反力係数 $k_{hl}$ は地盤調査報告書と整合している

## 2.3. 一貫計算書チェックリスト

### 2.3.1. 建物データ入力

- ☐ 定義した梁・柱・ブレースはすべて使用している
- ☐ 積雪範囲の床荷重に積雪荷重を考慮している
- ☐ 直接入力したブレースの断面積と断面二次半径はブレースリストの断面と整合している

### 2.3.2. 許容応力度計算データ入力

- ☐ 基礎梁がとりつかない方向の支点はフーチングの回転剛性を考慮している
- ☐ 立ち上げ部があるか、基礎梁がとりつかない方向がある露出柱脚は、基礎コンクリート破壊防止の検討において、立ち上げ部の割裂以外の検討も行っている

### 2.3.3. 保有水平耐力計算データ入力

- ☐ 基礎梁にヒンジが生じているかどうかを、 $Q_n/Q_{un}$ の比較表をみてチェックしてください。
- ☐ 保有水平耐力時に浮き上がりが生じている場合は浮き上がりのモデル化または引抜の検討を行っている
- ☐  $Q-\delta$ 図は $D_s$ 算定時で剛性がほぼ平らになるまで解析が進んでおり、崩壊メカニズムに至っている
- ☐  $Q-\delta$ 図に逆行や剛性の上昇はない
- ☐ カットオフ筋がある場合は付着割裂破壊の検討を行っている

## 3. 更新記録

### 更新記録

2026年1月19日の修正事項は以下となります

- 3章：更新日を追記しました
- 4章：markdown記法を追記しました。作成環境

2章がMECEじゃない気がするので、いちど再構成を行う必要があります。

## 4. MARKDOWN記法に関するメモ

本書の表記法：markdownに関する情報：

本ファイルの作成環境は、vscodeに `markdown all in one` というアドオンを入れた環境となります。

vscodeの入手先：

<https://code.visualstudio.com/>

vscodeで、`markdown all in one` というアドオンを入れてください。

<https://marketplace.visualstudio.com/items?itemName=yzhang.markdown-all-in-one>

目次の付け方：

目次を入れたい場所にカーソルを合わせます。

「cmd + shift + p」でコマンドパレット起動します。  
「>mark toc」と入力してコマンド検索します。  
「Markdown All in One: 目次(TOC)の作成」をクリックします。  
目次が生成されます。

章番号の振り方：

ファイルの保存と同時に更新されるように設定しておくと手間が省けて便利です。  
また、コマンドパレットで「Markdown All in One: Add/Update section numbers」を実行すると、自動で見出しに番号をふってくれます。  
これは、「Markdown All in One: Remove section numbers」で解除できます。  
目次に表示したくない場合は、見出しの横に「<!-- omit in toc -->」と記述すると非表示にできます。

HTMLファイルの出力の方法：

markdown all in one print current document to html  
上記のコマンドを打てば出力してくれる。

PDFの出力：

markdown pdf

<https://marketplace.visualstudio.com/items?itemName=yzane.markdown-pdf>

これだと、チェックボックスがフォームで出力されないのが悩んでいるが、  
単純に手書きチェックをつければよくないかということで、  
これによる出力が簡単なのでそうする

markdownに関する参考文献

<https://qiita.com/eyuta/items/b1a53f3da8c5f8e7f41d>

<https://www.ipride.co.jp/blog/5007#2-markdown-all-in-one>

<https://qiita.com/sola-msr/items/cfe448db958da3d08863>